

関上地区の復旧・復興プロセスの伝承事業

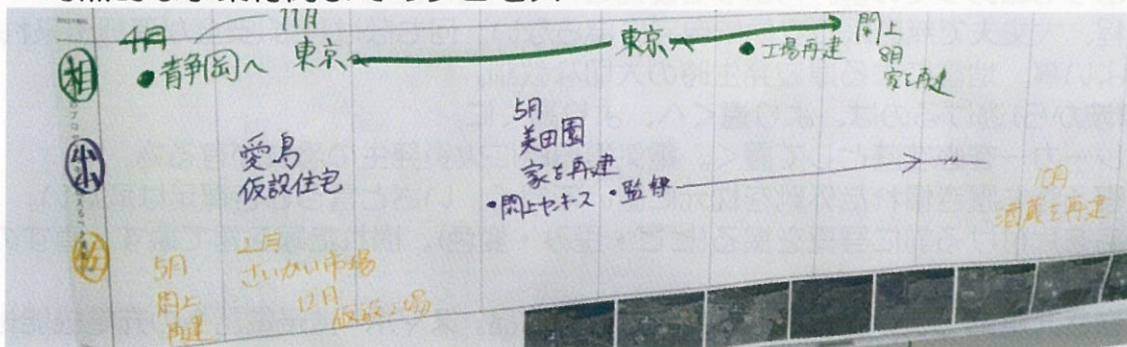
[暮らし再興の歩み] 対話イベント

開催報告 (速報版)



日時：2020年1月19日(日) 13:30~15:30 場所：増田公民館第一研修室
 登壇：相澤太さん、出雲隆さん、佐々木洋さん、[進行]高橋若菜さん (みやぎ連携復興センター)
 参加者数：約25名(河北新報の取材も含む) + スタッフ：10名程度

● 対照的な事業再開までのプロセス



● 情報を集めて自らが決断

仮設住宅で子どもが大き
愛島 5月 → 8月

美田園で早く再建が必要
ここでも潮の匂いがする

Q. どの情報を信じてた?

(相) 産業は行政窓口が充分

(出) 仮設住宅のウツサが広まっていた
→ 建てるタイミングで自分で決めた

(佐) 国産産業機関の情報 ネガティブな情報
入れないように

● 伝えたいこと

- 【相澤】逃げることに。気持ちさえあれば再建できるし、仲間も集まってくる。
- 【出雲】命を守る。家族と話し合っておく。広く仲間を持っておく。
- 【佐々木】心構えが大事。頑張れる人たちが繋がって頑張れない人を引っ張る。

● 会場からの声

「下余田から援助で亡くなった方も」「復興当初の方針は正しかったのか」

⇒ イベントで伝承の足がかりは捉えられたが“復興を検証する”には時期尚早

＜今後の展開について＞

TOTO 助成金申請事業の展示・対話イベントは 1 月末で終了・報告。※様式書類の提出

伝承の足がかりとして【地震災害時に大切な事】

+ なぜそれを思うのかのエピソード（対話イベントの記録+α）

⇒ 発信媒体として冊子などを制作する、震災復興伝承館の展示物にする。。。

【地震災害時に大切な事】

※針生代表の整理

- ① 何よりも命あっての事。何よりも優先されるべきは生きている人の命
- ② 余程、大丈夫で無い限り安易に自宅に戻らない。何もなければ(安全が確認出来れば)戻ればよい事。地震による津波発生時の大切な教訓。
- ③ (津波から)逃げるのは、より遠くへ、より高くに。
- ④ ブレーカーを必ず落として置く。電気復旧時に火災発生のおそれがある為。
- ⑤ 夜寝る時も履き慣れた外靴を枕元に置いておく。いざと言うとき裸足は危ない。
- ⑥ 自宅を片付ける前に写真を撮る(ヒビ・歪み・変色)。崩れた家を建て壊す・直すのは保険屋が見た後！
- ⑦ 手巻き充電式 又は ソーラー式ラジオは必需品。スマホ・携帯電話への充電機能付きがベスト。
- ⑧ キーホルダータイプの LED ライトは重宝する
- ⑨ 直ぐに使わない支援物資は敢えて貰わない。それを必要としている方が必ず居ます。
- ⑩ 避難所への支援物資は大切だが、在宅難民も含めた避難所以外に居る方々への公平公正な物資配分が大切
- ⑪ 風呂場でも何でも出来るだけ水を溜めて置く。飲み水ではなくトイレ用なので少々汚水でも良い。
- ⑫ 水洗トイレタンクにはペットボトル入れて節水。
- ⑬ 元気な人も、フルフル頑張る持つのは3日。こんな方々への配慮も大切(避難所に必ず居ます)。
- ⑭ 仮設住まいは元々の町内会単位だと後々やり易い。
- ⑮ 当たり前だが地割れ・破片でタイヤはパンクし易い。自転車は出来るなら空気入れを携帯するべき。
- ⑯ 罹災証明は多めに貰って置くと良い。
- ⑰ 災害発生に備え、隣近所と良好な関係を築いて置く。
- ⑱ 声の大きな方に流されず、自らが正しく判断する。最終的には必ず自己判断を迫られます。
- ⑲ 非常時程、手を広げて情報を待つのではなく、自分から情報を取りに行ける様に早めに切り換える。
- ⑳ 一方的な(一方向的な)ボランティアは長く続かない。自立を手助けするのが最終的に役立つボランティア。